

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年1月19日

1. 職名・氏名 准教授 山口理恵子

2. 学位 修士、専門分野 人間科学、授与機関 西南学院大学、授与年月 2007年3月

3. 教育活動

| | |
|-----------------------------|--|
| (1)講義・演習・実験・実習 | |
| ①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 | 権利擁護と民法総則（2単位）社会福祉学科・経済学科3年次、経営学科2年次以上 |
| ②内容・ねらい（自由記述） | 日常生活自立支援事業、苦情解決制度をはじめとする社会福祉の対象者の権利擁護支援を行うための制度に関する知識を獲得する。成年後見制度を中心に民法、行政法、憲法と社会福祉各法の関係についてについて社会福祉士として実践で要求されるレベルまでの知識を獲得する。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） | 相談援助と法律の関係を可視化するため、ドキュメンタリー等の視覚教材を使用している。映像はポイントとなる場面で一旦停止し、解説を入れる等、法律との結びつきを示し、飽きないよう工夫を行っている。またビデオ教材はオンデマンドでGCから配信し繰り返し視聴することを可能にすることで理解が深まるよう工夫している。プリントやパワーポイントの教材もGCにUPし欠席学生のためのフォローを行った。今年度の工夫は課題を3回にわたりGCを使って出題したことである。記載量に制限がないためかなりの量のコメントや自分なりに調べた知見を広く記載する学生がみられる等、授業への熱意が伝わったため、当該学生の同意を得てそれらの一部を公開する等、全体のモチベーションの向上につなげた。 |
| ①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 | 社会保障・社会福祉概説（2単位）看護学科1年次 |
| ②内容・ねらい（自由記述） | 社会福祉・社会保障に関する制度や法律、行政の仕組み・取り組みを理解し、日々の看護活動に活かせるように学習する。社会福祉の機能、歴史とともに社会保障の目的や対象・制度・サービスについて説明できる。看護職と連携して仕事を行うソーシャルワーカーの活動の概要を理解する。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） | 1年生に苦手意識を持たず社会保障制度の理解を促すために頻回に事例を使用している。また副教材として図解、グラフを多く使用することで視覚からの理解を促すよう心掛けた。開始時に前回の復習としてクイズ方式の出題をすることで国家試験のイメージやポイントを掴めるよう工夫している。必須科目であるが、5限連続の5限目という時間割にも配慮し、休憩になるような息抜きの話も取り入れている。 |
| ①現代福祉問題論（2単位）社会福祉学科1年次オムニバス | 「判断能力が不十分な人々の地域生活を考える」を担当 |
| ②内容・ねらい（自由記述） | 新入生にとって全体像がまだわからない社会福祉学科における学習内容、とりわけ、2年次以降に学ぶ内容にかかわる話題を、学科のさまざまな科目の担当者の視点から、1回ごとに完結する形態で紹介する。 |
| ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） | 自由意思と契約、福祉サービス利用契約の特質について判断能力の不十分な人々はどのような脆弱性を孕むか、それに対する支援を行う際パターンリズムの危険性はどこに潜むかについて事例を用い説明している。1年生で5限目であることに配慮し実際はかなりかみ砕いたクイズにする形で雑談も取り入れながら解説している。 |

| |
|---|
| <p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 社会福祉演習（2単位）3年次</p> |
| <p>②内容・ねらい（自由記述） 実習での経験や外部講師による後見実務の説明を踏まえ、事例等を用いながら利用者の権利を擁護し意思決定を支援するための制度及びそれを駆使するソーシャルワークの方法に対する考察を深めていく。ケースに応じ権利擁護に係わる制度と関係他機関を連携させる能力を養う。</p> |
| <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 前期は講義科目「権利擁護と民法総則」の知識を踏まえ、成年後見人が意思決定支援に係わる場面に対し「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」を示し事例を用い、ディスカッションを行った。後期は、実習経験等をふまえ卒業研究を視野に入れ実習で抱いた疑問・興味を中心に自分の関心分野に関するプレゼンテーション、意見交換を行った。</p> |
| <p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（4単位）4年次</p> |
| <p>②内容・ねらい（自由記述） 日常生活自立支援事業や成年後見制度における課題を中心に判断能力が不十分な当事者が地域で自律的な生活を行うために、周囲からその意思を過剰に制限されることなく主体的な意思決定を行うことを可能にするための研究を中心とする。学生の個別関心領域に合わせ柔軟な対応も行う。</p> |
| <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 昨年度に続き、感染状況や学生の状況（公務員試験の準備等就職活動）に配慮し対面とオンラインを併用した。指導は土日昼夜を問わず、学生の希望や進捗状況に応じ柔軟に対応した。学生の希望に沿ってキャリアセンターと連携を図りながら公務員試験の二次面接の準備や模擬面接、小論文対策指導も行った。</p> |
| <p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 権利擁護特論（2単位）大学院1年次</p> |
| <p>②内容・ねらい（自由記述） 社会福祉において要請される個別・多様性と法制度において不可避である画一・類型性、この相反する両者を如何にして調整し調和を図るべきかという視点を中心に議論を深め、自らの問題意識及び研究テーマに関連させつつ、権利擁護に関する議論を展開する力を得る。</p> |
| <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講者は科目履修生も含め社会人学生であり、制度に対する把握度が毎年異なるため、柔軟に内容を変更している。まずは実践の場で生じている問題や判例から興味や関心となる話題をピックアップし、自らの経験にも照らし合わせられるようにしている。最終的にはそれぞれが作成する修士論文にこの授業で学ぶ視点が反映されるよう研究テーマに合わせた個別対応も行っている。本年度は判断能力が不十分な人々の身元保証や日常生活自立支援事業から成年後見制度への移行に関わる課題を中心に県外及び嶺南の学生に配慮しオンラインで実施した。</p> |
| <p>(2)その他の教育活動</p> |
| <p>①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 WEB 社会福祉士精神保健福祉士国家試験対策講座講師共通科目「権利擁護と成年後見制度」 上記団体が長年にわたり実施している国家試験対策講座の講師ならびにテキストの作成を2019年度から現在まで担当している。なお同講座は受験対策講座特設サイト「ソ教連国家試験対策講座」(YouTube)にて配信されている。</p> <p>②福井県立大学「社会福祉士国家試験対策講座 権利擁護と成年後見制度」(2020年度よりオンライン) 福井県社会福祉士会との共同開催であり2016年の着任時から継続して「権利擁護と成年後見制度」を担当している。毎年のアンケート結果を踏まえ次年度の授業内容を改善している。</p> |

4. 研究業績

| |
|---|
| (1)研究業績の公表 |
| ①著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名) |
| ②論文(査読あり) 成年後見制度における苦情対応のあり方に対する検討—社会福祉法における苦情解決事業との比較を通して—福井県立大学論集 59号、2023年3月予定(2022年12月受理) |
| ③その他論文(査読なし) 「成年後見関係事件の概況」「後見人等による不正事例」からみえてくるもの～成年後見制度利用促進基本計画(第一期、第二期)との関係を踏まえて～ 実践成年後見 99号、民事法研究会、2022年6月 |
| ④学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) 1. 成年後見制度における苦情対応のあり方に対する検討 金沢大学人間環境学研究科研究カンファレンス(2022年9月28日)口頭発表 (オンライン、単独) 2. 成年後見制度における苦情対応のあり方に対する検討—社会福祉法における苦情解決事業を参考に—日本社会福祉学会第70回秋季大会(2022年10月16日)口頭発表、単独 |
| ⑤その他の公表実績 (広域設置の成年後見センター開設に係る協議会の委員長を務めた) 1. 広報ふくい「ふくい嶺北成年後見センター開所式」(2022年5月10日) 2. 福井市社会福祉協議会社協だよりふくい嶺北成年後見センター開所式」(2022年6月3日) 2. 福井新聞地方版「ふくい嶺北成年後見センター開所式」(2022年6月4日) 3. 一般社団法人コスモス成年後見センター福井支部(日本行政書士連合会)「コスモス福井通信」12月号インタビュー(2022年10月16日) |
| (2)科研費等の競争的資金獲得実績 |
| ※「学外・学内」を分けて記載ください。 【学外】科学研究費補助金基盤研究(C)「社会福祉サービスのシステムを生かした成年後見人の質の向上に関する研究」2022年4月～2026年3月予定(助成額)4,160,000円、代表研究者 【学内】福井県立大学KF枠研究費 「第二期成年後見制度利用促進基本計画に基づく都道府県の具体的機能に対する研究—市町村支援を中心に—」2022年6月～2023年5月(助成額)240,500円、代表研究者 |
| (3)特許等取得 |
| |
| (4)学会活動等 |
| 学会での役職など(学会名) 日本社会保障法学会選挙管理委員(2022年2月) |
| (5)特許出願 |
| |

5. 地域・社会貢献

| |
|---|
| (1)学外団体 |
| ① 国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） ・福井県成年後見制度利用促進協議会（仮称）委員長就任予定（2023年1月～） ・坂井市地域共生社会推進会議委員 （2021年12月～現在） ・ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン（事務局福井市）成年後見制度利用促進事業運営委員長 （2020年4月～現在） ・坂井市福祉保健総合計画策定委員会委員（成年後見制度利用促進基本計画策定部会長） （2020年4月～現在） ・坂井市中核機関委員会（現：坂井市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会）委員 （2019年4月～現在） ・坂井市法人後見運営委員会委員長（2018年4月～現在） ・大野市社会福祉協議会法人後見立ち上げ準備委員（2018年4月～現在） ・福井県社会福祉協議会地域福祉推進研究会 オブザーバー（2018年4月～現在） ・福井県社会福祉協議会福井県高齢者・障害者日常生活自立支援センター 契約締結審査会委員 （2017年4月～現在） ・福井県立病院倫理審査委員会委員（2017年4月～現在） |
| ② 国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間） |
| ③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） ・NPO法人シビルブレイン（大阪）理事：専門職を中心とする後見受任及び市民後見人育成・法人後見推進他、成年後見制度全般に係る調査研究（2014年5月～現在） |
| ④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間） |
| ⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間） |
| ⑥その他（名称、活動場所、活動期間） ・坂井市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会「成年後見制度の最新動向、第二期成年後見制度利用促進基本計画と持続可能な権利擁護支援事業」2023年1月27日予定 ・福井県社会福祉協議会成年後見講座、「成年後見制度をとりまく状況～第二期成年後見制度利用促進基本計画 市民後見人、意思決定支援～」2022年12月4日 ・滋賀県彦根市権利擁護サポートセンター（彦根市・彦根市社会福祉協議会）研修会「よく知って賢く使おう成年後見制度」講師、2021年12月17日、2022年2月17日（2023年1月18日現在もYouTubeで配信中） ・福井県社会福祉協議会権利擁護関係職員研修会「日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携のあり方を考える」講師、2022年2月4日 ・福井市成年後見制度研修会「成年後見制度の動向、意思決定支援」講師、2022年2月18日 |
| (2)大学が主体となっている地域貢献活動等 |
| ① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） |
| ② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 高校訪問 看護福祉学部の概要説明 武生高校（2022年7月21日） |
| ③その他（名称、活動場所、活動期間） |
| (3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） ・NPO法人抱樸 ホームレスや高齢者・障害者の基礎的支援、自立支援、ホームレス防止のための社会形成（福岡市、北九州、下関市）に対する募金活動、 |

6. 大学の管理・運営

| |
|---|
| (1) 役職 (副学長、部局長、学科長) |
| (職名、期間) |
| (2) 委員会・チーム活動 |
| (名称、期間) ・ 看護福祉学部研究活性化ワーキングチーム (2020年12月～現在) ・ 教職課程部会委員 (2021年4月～現在) ・ 学部 (社会福祉学科) カリキュラム検討チーム (2021年4月～現在) ・ 学生支援委員会委員 (2022年4月～現在) |
| (3) 学内行事への参加 |
| (行事名、参加日時) ・ 大学院ワークショップ、2022年5月 ・ 国家試験対策講座「権利擁護と成年後見制度」 福井県立大学 (オンライン開催)、2022年9月 ・ 大学院中間発表会、2022年11月 ・ 大学院社会福祉研究セミナー、2022年11月 ・ 全学ミーティング (全回) |
| (4) その他、自発的活動など |
| (活動名、活動内容、活動期間) |
| |